



【講評】この工法は、木造軸組工法や社寺建築に、室内空間の変更を一切伴わないで耐震補強を施すことができる。建物の外側に、アースドリル工法で鉄骨柱根巻きコンクリート基礎を新設し、その鉄骨柱でフレームを組んで、既存建物の梁に接合する。難しい施工技術は不要で、経済的である。補強フレームを利用した外壁を設けることにより、壁の断熱効果がよくなるという副次効果もある。アイデアに富む提案である。